

Techivation M-Compressor

ユーザーマニュアル



Techivation M-Compressor

概要

M-Compressor は、上方圧縮（アップワードコンプレッション）と下方圧縮（ダウンワードコンプレッション）の両方の機能を備えたスペクトラルコンプレッサーで、あらゆるタイプのサウンドにクリーンで歪みのない動的な処理を提供する新しいテクノロジーのもと開発されました。M-Compressor は個々の周波数で動作し、信号のスペクトルの輪郭に追従する動的なスペクトラルスレッシュホールドを用いることで、スペクトル全体でバランスのとれた圧縮を実現します。

M-Compressor はまったく新しいオーディオ圧縮の体験を提供し、クリエイターが仕事でより良い結果が得られるように支援します。それは、サウンドの完全なコントロールと使いやすさのすばらしいコンビネーションであり、最小限の労力で望ましい結果を達成するのに役立つ、高速かつ完璧なユーザー体験を実現します。

詳しくは: <https://techivation.com/M-Compressor/>

Techivation M-Compressor

機能(Features)

- Down Threshold
- Up Threshold
- Down Ratio
- Up Ratio
- Attack/Release
- Intensity
- Punch
- Tilt Amount
- Tilt Centre Frequency
- Diff
- Sidechain
- Ext. SideChain
- Sidechain Highpass Filter
- Auto Gain
- Analyser Level Range
- Input-Output Level Meters
- Diff Meter
- Makeup Gain
- Dry/wet Mix
- Stereo Link
- Internal On-Off Switch
- A/B Switch
- Undo-Redo Options
- Scaleable Graphic User Interface (GUI)
- Internal Menu
- Show/Hide Tooltips
- Stereo and Mono
- Presets

クイックユーザーガイド

Down Threshold: 信号が下向きに圧縮されるレベルを定義します。

Up Threshold: 信号が上向きに圧縮されるレベルを定義します。

Down Ratio: 下向きの圧縮の強さを制御します。1.0:1 に設定すると、下方圧縮は無効になります。

Up Ratio: 上向きの圧縮の強さを制御します。1.0:1 に設定すると、上方圧縮は無効になります。

Attack/Release : Attack は信号レベルの増加にコンプレッサーがどれだけ早く反応するかを制御し、Release は信号レベルが下がってから圧縮を停止するまでの時間の長さを制御します。

Intensity: 圧縮をどの程度ソフトに、あるいはハードに行うかを制御します。低い設定では、圧縮レンジが制限されたソフトニーが用いられます。設定を高くすると、よりハードなニーで全範囲の圧縮レンジで処理が行われます。

Punch: トランジェント強調の量を制御します。

Tilt Control & Centre: 「Tilt」はスペクトラルスレッショルドにおけるチルトのdB/オクターブスロープを設定し、「Tilt Centre」はスペクトラルスレッショルドを傾ける際の中心周波数を制御します。

Diff & Sidechain: 「Diff」では処理された信号と元の信号の違いを聞くことができ、「Sidechain」ではサイドチェーン入力を聞くことができます。

Ext. SideChain: 外部信号を使用して下方圧縮を作動できるようにします。

Sidechain HP: サイドチェーンハイパスフィルターの周波数を制御します。

Auto Gain: 「Make Up Gain」の自動制御を有効にします。「Make Up Gain」が無効になっている場合、「Make Up」パラメータは、最後に測定されたオートゲイン値に設定されます。

Techivation M-Compressor

Features

Down Threshold パート 1

通常のコンプレッサーは、コンプレッサーのスレッシュホールドとの関係に基づいて全体の信号レベルを調整します。それに対して、M-Compressor は、全体的な信号レベルではなく、信号スペクトルを処理します。個々の周波数は、スペクトラルスレッシュホールド曲線に応じたレベルに基づいて相対的に圧縮されます。

スペクトラルスレッシュホールドにより、M-Compressor がアーティファクトなしで動作できるようになります。スペクトラルスレッシュホールドの形状は入力信号のスペクトル輪郭によって決定され、入力に応じて動的に変化します。これにより、通常のコンプレッサーではありがちな低域の過剰な圧縮や高域の圧縮不足を招くことなく、スペクトル全体でバランスのとれた圧縮が保証されます。また、入力信号の元々のトーンバランスも維持されます。



Techivation M-Compressor

Features

Down Threshold パート 2

M-Compressor で Down Threshold を設定した時は、基本的に、どの時点でコンプレッサーが作動し、オーディオ信号のダイナミックレンジのリダクションを開始するかを指定することになります。言い換えれば、指定したスレッシュホルドより上の時はコンプレッサーは非アクティブのままであり、下になった途端に動作するという境界を設定するといった具合です。

「Down Ratio」「Attack」「Release」および「Intensity」パラメータは、下向きの圧縮の動作に直接影響します。



Techivation M-Compressor

Features

Up Threshold

従来の下向きの圧縮に加えて、M-Compressor は上向きの圧縮のスペクトル処理も提供します。下方圧縮では、信号レベルがスレッシュホールドを超えると減少します。上方圧縮は逆に機能します。つまり、信号レベルがスレッシュホールドを下回るとブーストされます。これは、信号のアンビエンスを引き出したり、よりアグレッシブなサウンドの圧縮を実現したい場合に特に便利です。



Techivation M-Compressor

Features

Down Ratio

M-Compressor の「Down Ratio」は、下向きの圧縮強度を調整するための重要なコントロールです。圧縮を無効にする 1.0:1 から最大 20.0:1 までの範囲で、オーディオ ダイナミクスを完璧に形作るための柔軟性を提供します。

Up Ratio

M-Compressor の「Up Ratio」は、上向き圧縮の強度を制御します。レシオの範囲は、上向き圧縮がオフになる 1.0:1 から、より顕著な圧縮効果が得られる最大 20.0:1 までです。



Techivation M-Compressor

Features

Attack

M-Compressor の「Attack」パラメータは、コンプレッサーが信号レベルの増加にどれだけ早く反応するかを制御し、圧縮のタイミングを正確に制御できます。

アタックタイムを長くすると、より多くの元々のトランジェントが変更されずに通過できるようになり、よりきびきびとしたサウンドが得られます。この効果は「Punch」のパラメータ量を上げることでさらに増幅できます。

Release

M-Compressor の「Release」パラメータは、信号レベルが低下した後、圧縮が停止するまでの時間を決定します。これは、圧縮のタイミングを整えるための重要なコントロールです。



Techivation M-Compressor

Features

Intensity

M-Compressor の Intensity パラメータは、圧縮の性格を形作る鍵となります。コンプレッサーによって生成されるスペクトルの調整に適用する、滑らかにする量を制御します。

設定を低くすると、緩やかなニーと狭い圧縮の範囲によるソフトな圧縮効果が生れます。一方、設定を高くすると、よりハードなニーで最小限のスペクトルの平滑化による、制限のない圧縮レンジでのより顕著な圧縮が得られます。

このコントロールを使用すると、オーディオ処理の要求に合致した圧縮のテクスチャを微調整できます。



Techivation M-Compressor

Features

Punch

「Punch」コントロールを使用すると、コンプレッサーのアタックに対する反応を制御することでトランジェントをシェーピングすることができます。「Punch」の設定を低くするとトランジェントがソフトになり、値を高くするとコンプレッサーのアタック中に通過する元々のトランジェントが強調されます。

これは、ドラム等のより鋭いトランジェントを持つサウンドに特に役立ちます。値を高くすることにより、ミックス内でサウンドをより簡単に前面に押し出すことができ、よりパンチの効いたサウンドになります。



Techivation M-Compressor

Features

Tilt Amount

トーンバランスの変更が必要な場合のために、このプラグインはスペクトルスレッシュホールドのチルトコントロールも提供します。これにより、スペクトルの一部にさらに多くの圧縮を適用し、スペクトルの残りの部分の圧縮を少なくすることができます。

Tilt Centre Frequency

「Tilt Centre」は、M-Compressorでスペクトルスレッシュホールドを傾ける際の中心周波数を制御できるパラメータです。このパラメータは、特定の周波数範囲に焦点を当ててオーディオの音色バランスを整えるのに役立ちます。



Techivation M-Compressor

Features

Diff

M-Compressor の「Diff」機能は、処理された信号と元の信号の違いを聞くことができる便利なツールです。この機能を使用すると、オーディオに加えられた変更や強化を聴覚的に認識できるため、圧縮設定を微調整して目的とする音質に到達することが容易になります。

Sidechain

「Sidechain」コントロールを使用すると、コンプレッサーのサイドチェーン入力を聞くことができます。この機能は、サイドチェーン入力オーディオの処理にどのような影響を与えるかを理解するのに役立ち、目的の効果を得るための正確な調整を行うことができます。



Techivation M-Compressor

Features

Ext. SideChain

「Ext. Sidechain」スイッチを使用すると、外部信号によって圧縮を作動することができます。このプラグインへの外部サイドチェーン入力の設定方法については、DAW マニュアルを参照してください。「Ext. Sidechain」が有効になっている場合、下方圧縮のスペクトラルスレッシュホールド値のレベルはサイドチェーンの入力レベルによって制御されます。ただし、スペクトラルスレッシュホールドの形状は依然として（サイドチェーンではなく）メインの入力によって決定されます。



Techivation M-Compressor

Features

SideChain HP

M-Compressor のスペクトラル スレッショルドの位置は、サイドチェーン入力レベル (「Ext. Sidechain」が有効な場合は内部または外部入力レベル) によって決まります。「Sidechain HP」パラメータを使用すると、スペクトラル スレッショルドがサイドチェーンの低周波数にどの程度反応するかを制御できます。

「Sidechain HP」値を増やすと、低周波数がスレッショルドに与える影響が少なくなります。これは、サイドチェーン信号にハイパス フィルターを適用することで実現されます。「サイドチェーン」出力モードを有効にすることで、この効果を試聴できます。



Techivation M-Compressor

Features

Auto Gain

M-Compressor の設定を微調整する際のレベルマッチングを容易にするために、「Auto Gain」モードが提供されています。

「Auto Gain」を有効にすると、圧縮前後の信号レベルを継続的に測定し、適切なメイクアップゲインを自動的に適用します。

「Auto Gain」は測定に基づいているため、パラメータの素早い変更に対応するのに時間がかかる場合があります。重要: 「Auto Gain」はメイクアップゲインを継続的に調整するため、コンプレッサーの設定を微調整している間のみ有効にすることをお勧めします。「Auto Gain」を無効にすると「Make Up」ゲインパラメータが直近の測定値に設定されます。



Techivation M-Compressor

Features

Analyser Level Range

M-Compressor のスペクトル アナライザーは、入力信号のスペクトル、下方および上方のスペクトル スレッシュホルド、およびコンプレッサーによって実行されるスペクトル調整を視覚化します。

入カスペクトル (白線) が下方圧縮のスレッシュホルド(金色の曲線) を超えると、スペクトル レベルはスレッシュホルドに向かって減少します。

リダクション量はコンプレッサーの設定 (「Down Ratio」 「Intensity」) によって異なり、赤色で表示されます。入カスペクトル (白い線) が上方圧縮のスレッシュホルド(青い曲線) を下回ると、スペクトル レベルはスレッシュホルドに向かってブーストされます。ブーストの量はコンプレッサーの設定 (「Up Ratio」 「Intensity」) によって異なり、緑色で表示されます。



Techivation M-Compressor

Features

Input-Output Level Meters

入出力レベルメーターは、処理前後の入力信号と出力信号のオーディオレベルを表示する視覚的なディスプレイです。

これらのメーターは、入力および出力レベルに関するリアルタイムのフィードバックを提供し、オーディオ圧縮プロセス中に発生する振幅の変化を監視できます。

M-Compressorの入出力レベルメーターをチェックすると、処理設定が入力信号に対して適切であること、および出力レベルが目的のターゲットレベルに一致していることを確認するのに役立ちます。



Techivation M-Compressor

Features

Diff Meter (Gain Reduction/Boost Meter)

ゲインリダクション/ブーストメーターは、圧縮前後の全体的な信号レベルの差を表示します。

Make Up Gain

M-Compressor のMake Up Gainを使用すると、圧縮された信号に適用されるゲインの量を正確に制御できます。この機能は、オーディオ出力が一貫した望ましい音量レベルを維持するのに特に役立ちます。「Auto Gain」オプションを有効にすると、コンプレッサーがメイクアップゲインを自動的にインテリジェントに設定することによりプロセスから憶測を排除し、ユーザーの介入を最小限に抑えつつ、最適なオーディオ品質を確保します。



Techivation M-Compressor

Features

Dry/wet Mix

「Mix」コントロールを使用すると、M-Compressor を使用してパラレルコンプレッションを行うことができます。一般的なケースは、M-Compressor をアグレッシブなサウンドに設定し、「Mix」を下げて元の信号とブレンドすることです。

「Make Up」ゲインは「Mix」の前に圧縮信号に適用されるため、「前」と「後」のレベルを一致させてシームレスな並列のブレンドを行うことができます。

Stereo Link

「Stereo Link」は、M-Compressor がステレオ信号にどのように反応するかを制御します。ゼロに設定すると、ステレオチャンネルは完全に独立して処理されます(デュアルモノラル圧縮)。100%では、ステレオチャンネルのスペクトラルスレッシュールドがリンクされ、圧縮(ステレオ圧縮)後に元のステレオイメージが維持されます。0～100%の値を使用すると、ステレオ信号を圧縮する際のチャンネルの独立性の度合いの適切なレベルを見つけることができます。



Techivation M-Compressor

[Features](#)

Presets

このプラグインは、右上隅にあるメニューを使用することにより、既存のプリセットをロードしたり、独自のカスタム プリセットを作成して保存したりすることができる便利な機能を提供します。

この機能により、特定のミキシング ニーズに合わせたさまざまな設定にすばやくアクセスして適用できるようになり、ワークフローが合理化され、オーディオ処理タスクの一貫したスタートポイントが提供されます。

さらに、独自のカスタム プリセットを保存すると、さまざまなプロジェクト間で好みの設定を簡単に呼び出すことができ、オーディオ制作への一貫した効率的なアプローチが保証されます。

Techivation M-Compressor

Features

Internal On-Off Switch

このプラグインは専用のバイパス/オンコントロールを備えており、エフェクトを迅速に有効またはバイパスすることができます。このユーザーフレンドリーなコントロールは、DAWホスト内で直接エフェクトのオンとオフを切り替えるときに発生する可能性のあるクリック音やオーディオアーティファクトを回避できるように設計されています。このバイパス/オンコントロールを利用することで、プラグインエフェクト有りの状態、無し状態でオーディオをシームレスに聴き比べることができ、よりスムーズなリスニング体験とミキシングプロセス内でより正確な調整をすることができるようになります。

バイパス/オンコントロールは、その主な機能に加えて、DAW内でオートメーション処理を行うときに特に役立ちます。バイパス/オンコントロールを自動化することで、ミックス内の特定のポイントでプラグインエフェクトを有効または無効にすることができ、オーディオ処理におけるダイナミックかつ創造的な変更を行うことができます。



Techivation M-Compressor

Features

A | B Comparison

A/B ボタンは、さまざまなオプションを比較し、オーディオ処理のニーズに最適な設定を見つけるための便利な方法を提供します。クリックするだけで、同じ処理チェーンの2つの異なるバージョンを簡単に切り替えて、結果を比較できます。さらに、「Copy A to B」および「Copy B to A」機能を使用すると、あるバージョンから別のバージョンに設定をコピーし、その効果を比較することで、微調整や調整をすばやくテストできます。A/B ボタンを「Copy」機能と組み合わせて使用すると、処理の微妙な変化を効率的に評価し、情報に基づいて最適なアプローチを決定できます。この合理化されたワークフローにより、時間と労力が節約され、技術的な細部に囚われることなく、ミックスのクリエイティブな側面に柔軟に取り組むことができます。



Techivation M-Compressor

Features

Undo/Redo

M-Compressor プラグインには、組み込みの「Undo」および「Redo」オプションの便利な機能が装備されており、オーディオ処理の作業中にさらなる安心感を与えます。これらの機能を使用すると、以前の設定に簡単に戻したり、誤って行った変更をやり直すことができるため、時間を節約し、貴重な調整が失われるという可能性により生じるストレスを軽減できます。

「Undo」および「Redo」オプションを使用すると、オーディオを不可逆的に変更することを恐れることなく、さまざまな設定や構成を試すことができます。さらに、この機能は、代案となる処理の道筋を遡って探索する効率的な方法を提供することでワークフローを強化し、オーディオ制作においてより多くの情報に基づいた意思決定を行うことができますようにします。



Techivation M-Compressor

[Features](#)

GUI Scale

M-Compressor のインターフェイス スケーリング機能を使用すると、好みに合わせて GUI のサイズをカスタマイズし、ワークフローを最適化できます。50%から150%までの幅広いスケーリングオプションが利用可能で、視覚的スタイルや作業スタイルに合わせてインターフェイスをパーソナライズできます。この機能の優れた点の1つは、選択したスケールに関係なく、プラグインのビジュアル品質が一貫したままであることです。これにより、好みの表示サイズに合わせて拡大、または縮小した場合でも、インターフェイスが鮮明で読みやすい状態に保たれます。

さらに、M-Compressor のインターフェイス スケーリング機能は、Retinaディスプレイを含むハイエンド品質のモニター向けに最適化されており、プラグインの見栄えが良く、さまざまなデバイス上で確実に動作することが保証されます。



Techivation M-Compressor

[Features](#)

Tooltips

M-Compressor には、プラグインのメニューから有効または無効にできる便利な「ツールチップ」オプションがあります。このオプションを有効にすると、ユーザーインターフェイスの各部分の特定のセクションの上にマウスを置くだけで、その部分の簡単な説明が表示されます。ツールチップは、プラグインのさまざまなコントロールや設定についてすばやく学習するための素晴らしい方法であり、インターフェイスの効率的な操作と使用が容易になります。

これらは、各パラメーターの機能、範囲、どのようにオーディオ信号へ影響を与えるのかなど、各パラメーターに関する役立つ情報を提供します。

ツールチップオプションを有効にすると、ワークフローが高速化され、M-Compressor プラグインの操作が容易になります。特定のコントロールの機能がわからない場合は、その上にマウスを置くだけで、すぐに有益なツールチップが表示されます。



Techivation M-Compressor

Features

Plug-in Menu

便利な機能のクイックメニューです。

- Undo
- Redo
- Presets
- Save Preset As...
- Load Preset...
- Open preset folder
- Default Preset
- GUI Scale
- Show/Hide Tooltips
- [ユーザーのメールアドレス]/Sign in
- About
- Support



Techivation M-Compressor

互換性

プラグインフォーマット: VST, VST3, AU, AAX.

対応プラットフォーム: 通常の macOS インストーラーは 10.13 (High Sierra) 以降をサポートし、レガシー macOS インストーラーは 10.9 (El Capitan) から 10.12 (Sierra) までをサポートします。

Windows 7以降。 32 ビットおよび 64 ビット。

対応DAW: Ableton Live, Logic Pro, Avid Protools, FL Studio, Cubase, Nuendo, Reaper, その他、市販されている主要な DAWソフトウェア。

アクティベーション

M-Compressor を当社の[利用規約](#)に従ってアクティブ化するには、当社 Web サイトからライセンスを購入する必要があります。弊社からライセンスを購入すると、プラグインにサインインした後、Techivation アカウントでプラグインが自動的にアクティベートされます。1つのライセンスを購入し、取得すると、ユーザーは同時に最大2台のマシンでプラグインを使用できます。

サポート

サポートに関するお問い合わせについては techivation.com/support をご覧ください。

権利について、詳しくは techivation.com/terms-conditions をご確認ください。

ご質問がございましたらお気軽にメールでお問い合わせください。 info@techivation.com あるいは techivation@gmail.com

インストール方法

[M-Compressor](#) ライセンスを購入した場合は、プラグインにサインインしてアクティベートし、生涯使用できます。

サインアップ/購入時にはソフトウェアのダウンロードが提供されますが、いつでも [Techivation.com](https://techivation.com) にアクセスして最新のソフトウェアアップデートを入手できます。

ダウンロード後、ファイルを解凍し、お使いのシステムに応じて Mac または PC インストーラーを選択します。(警告: PC ファイルを Mac 上で実行したり、Mac ファイルを PC 上で実行したりしないでください)。

- Mac: PKG インストーラーをダブルクリックし、指示に従います。
 - PC/Windows: ファイルの内容を抽出します。セットアップファイルをダブルクリックし、指示に従います。
- *注: Mac OS X 10.9 ~ 10.11 を使用している場合は、レガシー macOS インストーラーをダウンロードする必要があります。

Techivation M-Compressor

アンインストール先

MAC OS

AU: /Library/Audio/Plug-ins/Components/

VST: /Library/Audio/Plug-ins/VST/

VST3: /Library/Audio/Plug-ins/VST3/

AAX: /Library/Application Support/Avid/Audio/Plug-Ins/

Other data: ~/Library/Application Support/Techivation

WINDOWS

VST: Custom path from installer

VST3: %Program Files%\Common Files\VST3\

あるいは %Program files(x86)%\Common Files\VST3

AAX: %Program Files%\Common Files%Avid\Audio\Plug-Ins\

Other data: C:%ProgramData%\Techivation 「注：このフォルダは非表示になっているため、隠しファイルを表示するには最初に設定を変更する必要があります。」